

「社会的」ひきこもり・若者支援近畿交流会

ひきこもり支援マップ作成プロジェクト

企画書

1. 「ひきこもり支援マップ作成プロジェクト」(仮)について

本プロジェクトは、『「社会的」ひきこもり・若者支援近畿交流会』を母体とし、以下の活動趣旨に基づき、当事者ニーズという観点から、実践されるものである。

活動趣意

私たちが理想として描く社会とは、ひきこもりなどの生きづらさを抱えた当事者が、多種多様な支援・居場所に出会う機会が保障された社会です。このような社会では「自分の居場所」が見つからない当事者は居なくなり、多くの当事者が様々な支援・自助グループに結びつき、たくさんの「自分の居場所」を見つけることができるようになっているでしょう。

私たちはそのためにはまず、支援者や自助会等の情報が一か所に集約され、そこに誰もが簡単にアクセスできる環境が必要だと考えます。そして支援に関わる全ての人々が、これらの情報を自らが関係を持つ当事者に積極的に周知・提示していくことが必要であると考えます。そのためには支援に関わる者全てが、多様な当事者に対して自分だけでその課題解決ができるという考えを捨て、様々な支援者や関連団体と連携しながら当事者に向き合っていくのだという、意識の変化も必要です。

私たちはこの理想の社会を実現するための第一歩として、まずはこの理念に賛同し活動する支援者・自助グループのリストを作成します。また同時にこの理念を広く周知することで賛同者を増やし、近畿圏内の支援ネットワークの構築・強化にも繋がります。

2. 本プロジェクトの必要性——社会貢献に関して

これまで、各都道府県単位で支援機関をリスト化したものは発表されてきた。

しかし現在では、交通網の整備や情報伝達手段の拡充が進むことによって、自身の居住地とは別の府県の支援機関と関わりを持つ当事者が増えてきている。そこには、自身の居住地以外の地域での支援を望む当事者の存在も大きい。したがって、当事者のニーズに答えるためには、各都道府県単位を網羅するだけでは不十分となってきている。

さらに私たちの活動趣意にもあるように、当事者がそれぞれ自分に合った支援に出会うことを援助者が促すための参考資料とするには、それぞれの都道府県に限定された範囲では明らかに狭く、当事者の要望に沿った施設につなげることはできない。

これらの事態に対処するためには、全国的に網羅され、集約化され、一元化され、さらに閲覧保障性が確保された支援機関のリストが必要である。そのためにまず私たちは、近畿地方の支援機関を網羅的に実態調査し、今後の全国的レベルでの支援機関のリスト化につなげる。

加えて私たちの実態調査では、支援機関の単なる客観的な情報だけでなく、当事者や援助者がそれぞれの立場を踏まえて実際に現地に調査に赴き、そこで感じたそれぞれの虚心坦懐なコメントを付加する。そのことを通じて私たちは、支援を受けることを望む当事者が自身に適した支援に出会い易くすることを企図する。

3. 本プロジェクトの計画と将来への見通し

- (ア) 本プロジェクトの活動趣意に賛同していただいた全ての支援機関に対して、実際に調査票調査と実地見学を行い、客観的及び主観的な情報を区分しまとめる。
- (イ) まとめた情報をウェブ上で分かりやすく発信することにより、多くの当事者に正確かつ豊富な情報を提供することで、当事者それぞれに合った支援機関を見つけ出すことを促す。
- (ウ) 冊子化を行い、それぞれの支援機関に配布することを通じて、より多くの人びとがいろいろな支援機関の存在を知ることが促す。
- (エ) 得られたデータを援助者に提供することで、援助者に対し支援に関する選択肢の幅を広げることを促すことで、リファーをかけやすくする。
- (オ) 得られたデータを官公庁や大学等に対して二次データとして提供することにより、効果的な施策や有益な研究に貢献する。

4. 現在までのプロジェクトに関する概況

●2015年5月13日 『『社会的』ひきこもり・若者支援近畿交流会』第1回交流会

本会のプロジェクトとして、「ひきこもり生活支援マニュアル（仮称）」作成と、「近畿地区『社会的』ひきこもり・若者支援マップ（仮称）」作成の、二つのプロジェクトを行っていくことが検討された。

●2015年6月23日 『『社会的』ひきこもり・若者支援近畿交流会事務局』の立ち上げ及び第1回事務局会議

交流会会長 石井、事務局長 古庄より、若手支援者や当事者に対して、本プロジェクトへの参加打診や概要の説明がなされた。

マップ事業リーダー 竹内などの若手支援者や当事者が、メンバーとしてそれぞれのプロジェクトへの参加を表明した。

●2015年7月5日 第2回事務局会議開催

動員できる人員かつ経済的問題により、二つの事業を同時に実施することが困難であることが判明したため、会議において要望が高かったマップ作成のプロジェクトに一本化された。

この時点での正式メンバーは8名であり、一本化後のプロジェクトリーダーを竹内とし、マップ作成プロジェクトの今後の活動内容が検討された。

●2015年7月9日 『『社会的』ひきこもり・若者支援近畿交流会』第2回交流会

プロジェクトから竹内と泉、中上が参加し、プロジェクトの現状での計画や概要案について交流会メンバーに説明を行い、プロジェクトの予算獲得について話し合いが行われた。

●2015年7月15日 於 PSI カウンセリング

●2015年7月22日 於 PSI カウンセリング

マップ作成のための具体的方策が検討された。またメンバーが増員された。

●2015年7月26日 プロジェクトを具体的に進めるための第1回実務会議

プロジェクトの「活動趣意」が承認された。プロジェクトメンバーそれぞれの具体的な行動計画が検討された。

5. 今後のプロジェクトの予定

- 8月7日 プロジェクトを具体的に進めるための第2回実務会議
- 8月10日 支援機関及び自助団体へ質問票の送付
- 8月22日 特定非営利活動法人ウィークタイ見学及び質問票回収
- 8月23日 プロジェクトを具体的に進めるための第3回実務会議

6. プロジェクト参加のメンバー概略（参加順）（2015年8月4日現在）

2015年8月4日現在、プロジェクトに参加しているメンバーは、プロジェクトの活動趣意に賛同した以下の14名で構成されている。

No	氏名	プロジェクト外での活動内容等
1	竹内佑一 (リーダー)	大阪・南船場 PSI カウンセリング代表 大阪市在住

2	泉翔	関西大学大学院大学院生 大阪・豊中 NPO 法人ウィークタイ代表 研究者 元当事者 大阪府豊中市在住
3	伊藤康貴	関西学院大学大学院研究員 NPO 法人グローバル・シッパスこうべ 監事 研究者 元当事者 兵庫県在住
4	五條治	プログラマー 元当事者 兵庫県在住
5	和田達哉	社会福祉士 元当事者 大阪市在住
6	内田健太郎	介護福祉士 重度身体障害者への援助施設職員 NPO 法人ウィーク タイ理事 元当事者 兵庫県在住
7	中上洋介	大阪・西区 NPO 法人ニューワークス職員 当事者 大阪府在住
8	森岡幸平	臨床心理士 大阪・吹田で児童支援職に在任中 大阪府在住
9	武田千弥	関西学院大学大学生 兵庫県在住
10	濱田愛海夏	関西学院大学大学生 大阪府在住
11	井上啓	当事者 大阪府在住
12	坂井秀教	NPO 法人若者国際支援協会スタッフ (プログラマー) 大阪府在住

その他1名。

調査に際して、人員は大変重要な資源であることから、プロジェクト進行中においても随時メンバーを募集している。現在すでに、正式参加ではないものの、本プロジェクトに興味・関心がある人たちが数名おり、したがって8月中にはプロジェクトに正式に参加するメンバーがさらに10名程度増える見込みである。

なお、本プロジェクトは母体となる「『社会的』ひきこもり・若者支援近畿交流会」の規約第4条「活動」(2)、「事務局内に若手支援者・ピアサポーター・当事者などによるプロジェクトチームを設置し、緊急課題解決のためのプロジェクトを推進します」の定めるところにより、「若手」の参加者が中心となっている。ただしここでの「若手」とは、年齢についての区切りではなく、それぞれの参加者の自己認識に基づいた概念であり、「若手」概念自体の社会認識を問い返すものである。

また母体の交流会からは、本プロジェクトに対して今後多大な援助がなされる予定となっていることも、最後に付記しておく。

i 「『社会的』ひきこもり・若者支援近畿交流会」(以下「交流会」とは、「2014年2月に行われた『第9回社会的ひきこもり支援者全国実践交流会 in 大阪』」に集まった近畿地区の支援者・支援機関から、今後も学習・交流を続けようとの思いを受けて始まったものです。

この会の目的は、近畿地区の「社会的」ひきこもりなど困難な状況におかれた若者たちと、そのような若者を支える支援者・支援機関が、多様な協同を通じて、若者の自立とより生きやすい社会の創造を目指していくこととします」(規約第3条「目的」より抜粋)